

「汎用的スキル」の育成を重視した 教育政策がもたらしたもの — 「読解力」に焦点をあてて

PISA 型スキル、21 世紀型スキルに代表される「汎用的スキル」の育成が、教育段階を問わず広く求められるようになってすでに 20 年以上が経過する。この間、各国で、それに即した学校教育カリキュラムの改訂や教育方法、教員制度等、さまざまな改革が行われてきた。日本でも、初等中等教育段階では、学習指導要領の改訂により、より一層主体的な学びが求められ、大学をはじめとする高等教育段階に至るまで、アクティブ・ラーニングの実施が推奨されている。しかし実際に、学校・大学はどのように「変わった」のであろうか。われわれは、「当初の目的」を達成しつつあるのだろうか。このシンポジウムでは、これまで PISA 調査や学習指導要領の改訂に携わって来られた水戸部修治先生をお招きし、政策立案の背景や現状から、特に小学校における「ことば」の教育を事例として、これらの点について考えてみたい。

日時：2021 年 7 月 10 日（土）13:00~16:00

場所：オンライン開催 ※Zoom オンライン会議システムを使用、先着 100 名

◆第 1 部 13:10~14:10 講演

「読解力」が求められる背景と国語科の授業の現状～小学校の授業改善から～

水戸部 修治 氏（京都女子大学）

2003 のいわゆる「PISA ショック」から、読解力の低下に対する対策が様々に取られている。学習指導要領の改訂もその影響を大きく受けているが、そうした状況を踏まえつつ、子供たちのためのよりよい授業づくりを進めていくことが一層重要なものとなる。特にコロナ禍にあっては、これまで当たり前に行ってきた指導の在り方を改めて検討した授業づくりの一層の推進が求められる。そこで PISA2003 以降の施策を概観するとともに、現在進められている小学校国語科の授業改善の取組を紹介し、検討の視点を提案することとしたい。

◆第 2 部 14:20~15:50 全体ディスカッション

指定討論者①：浮田 真弓 氏（岡山大学）

指定討論者②：青木 麻衣子 氏（北海道大学）

参加申込先：<https://forms.gle/31mAf71b7B5w7iWK9> 申込用 QR コード→

※人数把握のため、参加を希望される方は **7月5日（月）**までにお申込み下さい。

※申し込みをされた方には、前日までに、参加方法をメールでご連絡します。



問い合わせ先：北海道大学高等教育推進機構 青木麻衣子 maoki [at] oia.hokudai.ac.jp

※メール送信の際はアドレスの [at] を@に置き換えてください。